

首里城復興基本計画（たたき台） （琉球文化継承・振興検討部会）



基本方針	たたき台
<p>(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知</p> <p>政府が発表した「首里城復元に向けた基本的な方針」においては、首里城跡の世界遺産登録に悪影響が及ばないよう、引き続きユネスコと緊密に連携しながら進めることが明記された。</p> <p>県としても国と連携して<u>遺構の劣化状況を的確に把握し、その価値が悠久に評価されるよう適切な保護を行い公開に取り組む。</u>また、<u>首里城跡や周辺文化財の発掘調査に関する成果の現地説明会を実施し、出土品の展示を行うなど、埋蔵文化財に関する情報発信にも積極的に取り組む。</u></p> <p>4 文化財等の保全、復元、収集</p> <p>今般の火災では正殿において展示・研究のために露出していた部分の遺構2か所が被災し、また収蔵品の多くも被災した。焼失又は被災した貴重な文化財等の復元や修復及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い、次世代へ継承するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知</p> <p>① 遺構の適切な保護及び公開 世界遺産である首里城正殿遺構について、損傷の状態を的確に把握し、その保護対策や公開についての指導、助言を行う。</p> <p>② 周辺埋蔵文化財の情報発信 首里城及び周辺の埋蔵文化財について、これまでの発掘調査の成果を公開するとともに、現地説明会や出土品の展示企画展、講演会を開催、AR・VR等最先端技術を活用した積極的な情報発信などに取り組む。</p> <p>4 文化財等の保全、復元、収集</p> <p>【基本施策のねらい】 周辺文化財を含めた首里城跡の発掘調査等学術的な成果等を一体的に整理するとともに、保護を適切に実施し、その歴史的価値を高め、周知する取組を推進する。 首里城正殿等の復元に向けた工程表に合わせ、焼失・被災した文化財等の修復及び復元の計画的な取組を推進する。 国内外に散逸した美術・工芸品等を含む文化財等の収集・修復等に関する一元的体制を確立し、文化資産を守り継承する取組を推進する。</p> <p>【目標となるすがた】 首里城周辺の文化財を含めた首里城跡の歴史的価値が評価されるとともに、保全に必要な措置が適切に実施されている。 焼失・被災した美術・工芸等の文化財の修復及び復元が取り組まれている。 国内外に現存する美術・工芸品等の展示会等が沖縄で活発に実施されているとともに、必要な修復等が沖縄で実施している。さらに、それらの収集が積極的に取り組まれ、文化が継承されている。</p> <p>【課題】 首里城周辺の埋蔵文化財の情報整理 焼失した文化財等の現状把握 文化財等の復元、修復に係る役割分担</p>
<p>(2) 文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>今般の火災では美ら島財団が所有していた収蔵品393点が焼失したものと思われ、焼失を免れた漆器類等も、熱や消火活動による水の影響で薄紙の付着、塗膜の劣化が見られ、一部熱で木型が変形している物もあり、修復にかかる費用や時間の目処は立っていない。</p> <p>今回被災した文化財等は琉球の歴史、文化を知る上で重要な役割を果たしており、<u>所有者との役割分担を明確にした上で、修復及び正殿等建物の復元にあわせた展示品等の復元についても積極的に支援する。</u></p> <p>また、<u>先の戦災等で散逸した琉球王国関係資料に関する研究を行うとともに、国内外に所在する王国時代の資料収集に引き続き取り組む。</u></p>	<p>(2) 文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>【目標達成への道筋】 首里城及び周辺の埋蔵文化財に関する調査研究成果を一体的に整理しつつその学術的な価値を高めていくとともに、一般にも分かりやすい説明となるよう工夫を凝らし、積極的に周知を図っていく。 焼失・被災した文化財等の現状把握を行い修復等に関する課題を関係者間で整理し、それぞれの役割分担等を明確にした上で、正殿等の復元に向けた工程表に合わせた文化財等の修復・復元を図っていく。 県内に設置されている公設の美術館及び博物館の現状や役割等を再評価するとともに、国内外に散逸した美術・工芸品等を含む文化財等の収集・修復等に関する課題等を整理する。その上で、収集・修復等に関する体制のあり方を検討、確立し、文化資産を守り継承する取組を一元的又は一体的に実施していく。 また、これらに当たっては、県立芸術大学等と連携し、学術的知見の充実及び必要な人材の育成等に取り組んでいく。</p> <p>① 被災した文化財等の修復、復元に対する支援 焼失・被災した文化財等の現状・課題の整理を行い、修復及び復元について所有者である（一財）美ら島財団と役割分担を明確化した上で、国営・県営区域の展示機能の整備にあわせた修復計画及び復元計画を策定する。復元にあたっては、県及び市が所蔵する資料への熟覧等への協力、実施に向けた体制づくりや人材育成など支援及び学芸員による専門的な見地からの積極的な助言・協力を行う。</p> <p>② 琉球王国時代の文化財等の調査、資料収集 国内外に所在する琉球王国時代の文化財等について、引き続き所在調査を進め、その情報を整理し、積極的に公開する。またそれら文化財等の里帰り展の実施や県内において修復等を行うなど、貴重な文化遺産を守り、次世代に継承する取り組みを進める。</p>

首里城復興基本計画（たたき台）

特命推進課 作成

基本方針	たたき台
<p>5 伝統技術の活用と継承</p> <p>首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっている。</p> <p>そのため県内の関係機関と連携し、<u>伝統技術を活用、継承</u>するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 伝統的な建築技術の活用と継承</p> <p>首里城正殿等には、独特の赤瓦や漆塗りなど伝統的な建築技術が施されており、そのような建築技術は、前回復元時から施設修繕等で県内職人を活用することなどにより、蓄積、継承されている。</p> <p>今回の復元がなされた後においても、<u>首里城正殿等の維持保全や県内建築物に活用できるよう、伝統的な建築技術を蓄積、継承するとともに、技術者の確保、育成に取り組んでいく。</u></p>
<p>5 伝統技術の活用と継承</p> <p>首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっている。</p> <p>そのため県内の関係機関と連携し、<u>伝統技術を活用、継承</u>するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(2) 美術工芸における伝統技術の継承</p> <p>琉球王国時代から相伝する8つの手わざ（<u>絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線</u>）について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の記録の公開など、<u>広く情報発信に取り組む</u>、「技」を継承するために<u>技術者の育成、材料や道具類の確保</u>に取り組む。</p> <p>また、<u>美術工芸品等の修繕に関わる技術者の育成・継承</u>について取り組み、<u>沖縄伝統工芸品の修復拠点となるべく県立芸術大学を中心に首里城の伝統技術に関する教育の推進</u>についても検討を行うと同時に、<u>県内大学等との連携</u>を図る。</p> <p><u>各技術の伝承者養成に向けては関連する保存会等の支援</u>を引き続き行う。</p>
<p>5 伝統技術の活用と継承</p> <p>【基本施策のねらい】 首里城で使用されている建築技術を今回の復元だけではなく、今後の修復に活用できるよう継承していく。また、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流ともいえる美術工芸における伝統技術についてもその活用をはかり継承していく。</p> <p>【目標となるすがた】 伝統的な建築技術が蓄積、継承され、首里城正殿等の華美なたたずまいが悠久に受け継がれている。 模造復元製作の成果や伝統工芸品の修復に係る教育の推進により、その技術が蓄積、継承され、県内、国内外にある琉球王国時代の文化財等の保全がされ、沖縄らしさを継承されている。</p> <p>【主な課題】 伝統的な建築技術の一般的な建築物への活用 保存科学における試料測定・分析や科学・物理実験等を実施する機関との連携 各技術における技術者の高齢化、伝承者育成の環境整備</p> <p>【目標達成への道筋】 首里城正殿等は、その建物自体が巨大な美術工芸品とも言われており、復元、維持管理するためには、漆芸や木工等などの伝統技術が不可欠であることから、<u>続き技術者の確保、育成</u>に取り組む。 伝統技術の技術者は高齢化し、その数も減少してきていることから、美術工芸品の模造復元製作に取り組み、その製作技術を（科学的に）継承していく。また文化財修復技術については県立芸大において、保存修復技術に繋がる基礎技能の習得や将来的な保存修復分野課程の開設にも繋がるようなカリキュラムを検討など、段階的な教育内容の充実を図る。さらに長期的な取組として、<u>国または県の無形文化財に指定されている工芸技術を持つ各保存会等に対して、伝承者育成事業を実施し、技の継承を図る仕組み作り</u>を行う。</p>	<p>(1) 伝統的な建築技術の活用と継承</p> <p>① 伝統的な建築技術の活用と継承 漆芸技術や木工における技術者の育成に引き続き取り組み、今回の首里城復元工事及び復元後の維持管理・修繕に活用できる技術の継承に取り組む。</p> <p>(2) 美術工芸における伝統技術の継承</p> <p>① 模造復元の成果による技術者の育成等 琉球王国時代から相伝する手わざ（<u>絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線等</u>）について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の公開など、<u>広く情報発信に取り組む</u>、技術者の育成につなげるとともに、<u>材料や道具類の確保</u>に取り組む。</p> <p>② 伝統技術及び修復技術に関する教育の推進 県立芸大において、保存修復技術獲得に繋がる基礎技能の習得に向け、段階的な教育内容の充実を図る。また、現行教育にも資する内容で、保存科学分野の選択科目の開設を検討し、将来の文化財あるいは保存修復分野の学位取得にも繋がるようなカリキュラムを検討する。</p> <p>③ 伝承者育成に向けた支援 国または県の無形文化財に指定されている工芸技術を持つ各保存会等に対して、<u>伝承者育成事業等</u>を実施し、<u>技の継承を図る仕組み作り</u>を行う。</p>

基本方針	たたき台	
<p>(1) 多様で魅力ある観光資源の活用</p> <p>首里地域に点在する石畳道や屋敷石垣、御嶽や井泉をはじめ、地域ごとの特色ある生活文化は国内外から訪れる来訪者にとって魅力的な歴史・文化的遺産であり、地域に根ざした伝統産業を含めた潜在的な魅力を観光価値化し活用していく必要がある。</p> <p>そのため、国と連携して<u>首里の魅力を体験できる周遊ルートの提案、地域の歴史、文化、生活様式を学び、体験できる観光商品の開発支援</u>に取り組むとともに、<u>観光資源を保全するため地域の文化財の保護、地域行事の継承などの支援</u>に取り組む。</p>	<p>7 歴史の継承と資産としての活用</p> <p>【基本施策のねらい】 首里城及びその周辺地域を観て学ぶことができる観光資源として活用していくことで、首里城を中心とした歴史・文化の継承に取組を推進していく。</p> <p>【目標となるすがた】 まちなみを含めた首里地域に点在する歴史・文化的遺産、これらを背景とした生活文化など、地域の潜在的な魅力が資産として認識され、各主体がそれぞれの強みを生かしつつ相互に連携して歴史・文化を体験できる取組が活発に実施されている。</p> <p>首里城周辺に存在する戦争遺跡が適切に保存されるとともに、第32軍司令部壕を活用した平和の学習環境等が整備され、悲惨な沖縄戦の実相が正しく後世や世界に伝わり、「沖縄」をより深く知ってもらえている。</p> <p>首里城の復興を通して、沖縄の歴史・文化を感じることができ取組が活発に実施され、ふるさとへの誇りや愛着を育まれ、文化の継承につながっている。</p>	<p>(1) 多様で魅力ある観光資源の活用</p> <p>① 生活文化の観光資源化 首里地区に点在する歴史・文化遺産である石畳道や屋敷石垣、御嶽や井泉、地域ごとの特色ある生活文化、地域に根ざした伝統産業などを体験できる観光商品の開発、周遊ルートの提案などに取り組む。</p> <p>② 観光資源の保全・継承 那覇市や関係団体と連携し、観光資源を保全するため地域の文化財保護活動を支援するとともに、地域の伝統文化の保存・継承に取り組む団体活動の支援に取り組む。</p>
<p>7 歴史の継承と資産としての活用</p> <p>戦火等により灰燼に帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた首里城の歴史、文化はもとより、これから先、長い年月をかけて取り組んでいく首里城の復興過程を次世代に継承し、その価値を発信していくことは非常に重要である。</p> <p>そのため、首里城及びその周辺地域の観光資源を活用し、その価値を発信するとともに、子どもたちが観て、学ぶことができるよう下記の取組を進める。</p>	<p>(2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信</p> <p>悲惨な沖縄戦の実相を正しく後世に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く世界に発信していくことは沖縄県の重要な責務である。</p> <p>そのため、第32軍司令部壕などの首里城周辺の戦争遺跡を保存、継承するとともに、証言記録、調査資料等とAR等のICTを活用した平和学習ツールの開発・提供など、その<u>歴史的価値の継承及び平和発信に向けた環境整備</u>に取り組む。</p>	<p>(2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信</p> <p>① 歴史的価値を継承するための環境整備 首里城、首里城周辺に存在する戦跡について、適切に保存するとともに、第32軍司令部壕については、新たに設置する専門家委員会において保存・活用方法を検討し、併せて、証言記録、調査資料等とAR等のICTを活用した平和学習ツールの開発・提供などを行い、その歴史的価値の継承及び平和発信に向け取り組む。</p>
<p>(3) 次世代を担う子どもたちへの継承</p> <p>子どもたちが首里城の復興を通して、多くの人々の思いや努力が結実していく姿を実際に見て、感じるとともに、地域の歴史、文化を学ぶことは、「チムグクル」「イチャリパチョーデー」「ユイマール」といった沖縄らしい個性をもった人材育成につながるだけでなく、伝統文化の保存、継承、地域振興につながっていく重要な取組である。</p> <p>そのため、那覇市など関係機関と連携し、<u>子どもたちに琉球の歴史、文化を観て、学び、体験できる場を提供</u>するとともに、その<u>活動支援</u>に取り組む。</p>	<p>【主な課題】 地域の特色ある生活文化など観光資源の認知度の向上 戦後75年が経過したことによる沖縄戦の記憶の風化及び戦争遺跡の認知度の低下 幼い頃から地域活動や体験活動を通じて沖縄の歴史・文化に触れる機会の充実</p> <p>【目標達成への道筋】 地域に点在する文化財や地域の特色ある生活文化や地域に根ざした伝統産業を含めた潜在的な魅力を観光価値化することにより、首里城周辺への観光客の周遊を促す。</p> <p>第32軍司令部壕をはじめとする首里城周辺存在する戦争遺跡を適切に保存、継承することともに、それらを活用し沖縄戦の実相を正しく後世に継承し、情報発信を行っていく。</p> <p>次世代を担う子ども達が、首里城の復興や地域行事を通して、琉球の歴史、文化を学び、沖縄らしい個性をもった人材に育っていく。</p>	<p>(3) 次世代を担う子どもたちへの継承</p> <p>① 地域を大切にし、誇りに思う青少年の育成 次世代を担う子ども達に、首里城の復興を通して、琉球の歴史、文化を感じてもらい、また、地域行事などを通して地域の歴史、文化を繋ぎ、「チムグクル」「イチャリパチョーデー」「ユイマール」といった沖縄らしい個性をもった人材を育成する。</p>

基本方針	たたき台
<p>（１）多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識</p> <p>島しょ県である本県は、地域ごとに特色ある生活文化を有し、温暖な気候、風土の中で外からの文化を受け入れ、自らの文化として体現してきた。</p> <p><u>首里城内の宮中文化に加え、多様性・独自性のある沖縄各地の地域文化の価値を再認識するとともに、これら魅力ある地域資源を普及・継承していく取組を行う。</u></p> <p>また、首里城やその周辺地域で育まれた琉球文化の魅力について、<u>学術的に研究する拠点づくり</u>について検討する。</p>	<p>（１）多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識</p> <p>① 伝統芸能に触れる機会の提供 伝統芸能の普及・継承のため、児童生徒対象に組踊等沖縄伝統芸能、沖縄芝居の鑑賞及び組踊ワークショップで体験する機会を提供する。 また、県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、若手実演家等の公演及び国の重要無形文化財保持者の公演を実施する。</p> <p>② 地域文化の伝統行事・芸能等をテーマにした文化講演（シンポジウム等）の開催 地域の文化継承・発信を目的とした文化公演を開催する。</p> <p>③ 琉球文化を見つめ直す日を定め、定期的なイベントの開催 地域社会の形成を目指すため、琉球文化を見つめ直す日を定め、定期的なイベント開催等により、琉球文化に対する再認識を促す。</p>
<p>（２）琉球文化の復興と新たな文化の創出</p> <p>2019年に300周年を迎えた「組踊」は首里城から生まれた琉球独自の芸能であり、幾多の世代わりを経ながらも脈々と受け継がれ、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。文化芸術は人々が心豊かに生き、活力ある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として欠かせないものである。</p> <p>また、沖縄が世界に誇る伝統文化である空手は、首里王府時代に士族の嗜みとして発達したとされ、首里城との歴史的な繋がりが深い。</p> <p><u>先人の「万国津梁」の精神を受け継ぎ、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造する場としての首里城をつくると共に、県民の感動体験の機会を創出する拠点としての首里城公園の活用</u>を検討する。</p>	<p>8 琉球文化のルネサンス</p> <p>【基本施策のねらい】 首里城の焼失によって改めてその価値が再認識された沖縄独自の文化について、自信と誇りを持ち、その価値を将来に向けて高め、世界に発信していく。</p> <p>【目標となるすがた】 多様性・独自性のある県内各地の地域文化などの価値が再認識されることで普及・啓発され、県民に琉球文化を身近に感じてもらえている。 首里城、首里城周辺が県民の感動体験の機会を創出する拠点となり、多くの県民に首里城を身近に感じてもらえている。 沖縄の多様な文化が世界へ発信され、沖縄の認知度が高まっている。 伝統技術を活かした商品開発や販路拡大等が行われ、現代のライフスタイルに広く活用されている。</p> <p>【主な課題】 価値観の多様化等により若い世代を中心に伝統文化に対する関心が低下し、後継者が不足している 伝統芸能、伝統工芸に触れる機会が少ない 首里城（城郭内施設）の利用条件が厳しい 根本的に文化で食べていけない現状がある</p> <p>【目標達成への道筋】 先人が造り上げてきた沖縄の歴史、文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成を目指すため、琉球文化を見つめ直す日を定め、定期的なイベント開催等により、琉球文化に対する再認識を促す。 首里及びその周辺エリアにおいて、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感できる機会の創出を検討し、県民や観光客に提供する。それをきっかけに、国立劇場おきなわでの鑑賞機会につながるよう、関係文化団体等と連携、協力し、観客等を引き込む仕組み作りを検討する。 「日本遺産」のストーリーを国内外へ発信する。また、県外・海外公演への芸能派遣支援を行い、琉球文化を直接体感してもらう取り組みを行う。 工芸技術者の育成や原材料確保に係る取り組みに加え、消費者の感性に働きかける魅力ある商品開発への支援、販路開拓等について引き続き支援する。更に令和3年度末供用開始予定の「おきなわ工芸の杜」において取り組みを強化する。</p>
<p>（３）国内外へ向けた琉球文化の発信</p> <p>令和元年度『琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が日本遺産に認定された。このストーリーを国内外へ広く発信すると同時に、沖縄の多様な文化等に関し、琉球大学を中心とした国内外の大学等による学術面での評価・発信や世界のウチナーンチュネットワーク等を活用して展開する取組等について検討する。</p>	<p>（２）琉球文化の復興と新たな文化の創出</p> <p>① 感動体験の機会を創出する拠点づくり 首里及びその周辺エリアにおいて、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感できる機会の創出を検討する。</p> <p>（３）国内外へ向けた琉球文化の発信</p> <p>① 「日本遺産」のストーリーとしての発信 令和元年度日本遺産に認定された『琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』を広く国内外へ発信することで、琉球文化の面的な広がりをアピールする。</p> <p>② 県外公演・海外公演への派遣支援 伝統芸能の普及・継承のため若手実演家の育成や子ども達に伝統芸能に触れる機会の提供、県外公演・海外公演への派遣支援等を行う。</p>
<p>（４）琉球文化を活用した産業振興</p> <p>本県独自の伝統的な食文化や伝統工芸、芸能等はその技術が高く評価されていることから、これらの<u>伝統技術を現代のライフスタイルにおいて広く活用するための商品開発や販路開拓等を支援し、伝統技術を活用した産業振興</u>を図る。</p>	<p>（４）琉球文化を活用した産業振興</p> <p>① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発 本県の歴史・文化は、消費者の感性に働きかける魅力の一つである。その個性豊かで多様性のある文化資源を有効活用し、文化振興と産業振興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種と連携し、文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や新商品開発を検討する。</p>